

平成 30 年度事業実施報告書

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

はじめに

平成 30 年度は主要な食育推進活動である調理講習会及び親子料理教室を全国で実施するとともに、重点取り組み活動として、機関情報紙「すこやか情報便」第 22 号の作成、全学栄製品学校給食用非常食の開発支援と普及・全学栄関連製品の開発改良、及び全面リニューアルしたホームページを通して、最新の情報をリアルタイムに発信して参りました。

「すこやか情報便」第 22 号は、平成 30 年 8 月 1 日に改正・施行された「学校給食実施基準」の要旨について、学校給食調査官及び策定に関わってこられた先生方と現場で実際に運用される栄養教諭にご参加頂き、座談会を実施した内容を取り纏めて参りました。

また、各学校で広く活用頂きたいとの思いから、全国すべての公立小・中学校、特別支援学校約 31,000 校に配布しました。その結果、大きな反響が寄せられ、各種研修会等で活用したいとの追加送付の依頼も数多く、幅広い有効活用につながっています。

公益社団法人全国学校栄養士協議会と定期的に行っている学校給食用食品開発会議の場において、災害時学校給食用非常食の開発とともに全学栄製品、全学栄すいせん製品の開発・改良に向けて取り組んで参りました。非常食につきましては、従来からの「救給カレー」、「救給根菜汁」、「救給コーンポタージュ」に加えて、「救給五目ごはん」の製品化に向けて取り組みました。全学栄製品・全学栄すいせん製品につきましては、スクラップ&ビルドを進めながらニーズに合った新しい製品を完成させると共に、次なる開発テーマに向けて取り組んでおります。

また、協会のホームページにつきましては、当協会の様々な活動内容や学校給食レシピ情報について情報発信すると共に、最新の学校給食・食育関連情報を発信して参りました。併せて 8 月には、学校給食の歴史やメニュー等について英文対応ページを作成して、幅広く国内外に情報発信しております。

詳細については、以下のとおり報告致します。

公 1 食育推進事業

I. 食育の推進に関する活動

1. 普及活動

1) 調理講習会

開催状況： 17 都道府県 19 ケ所 参加者 699 名
(前年実績：21 都道府県 25 ケ所 968 名)
実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

2) 親子料理教室

開催状況： 24 都道府県 84 ケ所 参加者 3,422 名
(前年実績：24 都道府県 79 ケ所 3,137 名)
実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

3) 講師の紹介及び派遣

(公社)全国学校栄養士協議会や(公財)都道府県学校給食会及び各地の教育委員会からの要請により研修会や調理講習会等に講師の紹介及び講師を派遣しました。

○講演講師の紹介

<講師> 畿央大学 健康科学部健康栄養学科 講師 玉井典子氏
テーマ 「学校給食献立の教材化及び食に関する指導の理論と実践」
日時 平成 30 年 10 月 19 日
主催 全国学校栄養士協議会京都府研究会 参加者 約 80 名
会場 京都パルスプラザ

○調理講習会への講師派遣

<講師> 管理栄養士 酒井淳子氏
北海道、山梨県、茨城県、福島県、岡山県、青森県

<講師> 管理栄養士 小池美恵子氏
新潟県、秋田県、群馬県、神奈川県

2. 広報活動

1) 機関情報紙「すこやか情報便」の発行

本機関紙は子ども達の心身のすこやかな成長を基軸に据えて、学校給食および食に関する情報を、学校給食関係者、その他多くの人々に広報し、提供しています。学識経験者・専門医・栄養教諭などによるレベルの高い座談内容をコンパクトにまとめて編集し、分かりやすく発信していることから、養成大学指導資料、講演会資料、保護者配布資料、教育委員会配布資料等、幅広く活用され、高い評価を得ております。

「すこやか情報便」第 22 号（平成 30 年 12 月 27 日発行）

『学校給食実施基準の一部改正の要旨』

～改正に即した実践運用を進めていくために～

今回の改正の特色は小中学生の食事状況調査結果の実態を踏まえており、科学的なエビデンスに基づいて策定された画期的な基準値です。本号では改正基準がどのような背景・経緯でまた、何を目的として策定されたのかについて、実施基準調査協力者会議のメンバーの先生方の座談収録ご参加を得て、分かり易く纏めており、データ・専門用語等には解説を付けております。

最新の学校給食摂取基準情報誌として、文部科学省、教育委員会、小中学校管理職および職員など全国各方面から高い評価を頂き、学校現場はじめ、その他幅広く活用されております。

<座談メンバー> (敬称略)

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課	学校給食調査官	齊藤るみ
神奈川県立保健福祉大学	学長	中村丁次
東邦大学医学部	准教授	朝倉敬子
香川県教育委員会事務局保健体育課	主任指導主事	赤松美雪
滋賀県彦根市稲枝東小学校	栄養教諭	廣田美佐子

<コーディネーター>

公益社団法人全国学校栄養士協議会	会長	長島美保子
------------------	----	-------

2) 「日本の学校給食」パンフレット4ヶ国語版の活用

日本の学校給食パンフレットは日本語版に続いて、英語版・中国語版・韓国語版を作成しておりますが、世界一と言われる素晴らしい日本の学校給食の取り組みを、様々なルートを通じて国内外に幅広く広報発信いたしました。

3) ホームページの活用

協会の活動内容及び学校給食及び食育関連の最新情報をインパクトのある画像と共にタイムリーに発信し、8月には学校給食の歴史やメニューのデータなど、英語版も大幅に充実させて、更新しております。

それに伴い、訪問件数も月々1万件を超えて、増加しました。

4) ニュースレターの拡充

今年度も引き続き「改善協会ニュースレター」として年10回、全国約300名(含む、法人)の学校給食関係者および学校給食関係者以外の人々に対し、協会内で吟味した学校給食や食育に関する情報を提供してまいりました。

5) 学校給食・食育をテーマとした各種大会への参加

下記のイベントや大会に紙芝居及び救給カレーを展示し、食育の推進に努めました。食育推進全国大会では学校給食関係者以外の一般の方々にも広く学校給食の現状を知らせ、食育の普及に努めました。

また、関連する研修会、講演会各種セミナーにも積極的に参加して研鑽を積み、活動内容のレベルアップに繋げて参りました。

さらに、絵画については月刊誌に定期的に掲載頂きました。

【平成30年度に参加した各種大会】

キッズフェスタ	(春:5月19日 秋:10月27日 東京都)
第13回食育推進全国大会	(6月23日～24日 大分県)
第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会	(8月2日～3日 広島県)
野菜フェスタインWAKAYAMA	(8月26日 和歌山県)
フードシステムソリューション2018	(9月26日～28日 東京都)
第69回全国学校給食研究協議大会	(11月29日～30日 兵庫県)
平成30年度文部科学省主催学校給食週間行事	(平成31年1月)

※上記の催事にて、すこやか情報便、日本の学校給食パンフ等を配布しました。

II. 学校給食事業に関する助成

下記の団体に対し事業運営費の助成を行いました。

1. (公社) 全国学校栄養士協議会 (会長 長島美保子)
2. (一社) 日本学校調理師会 (会長 吉田美智江)
3. 栄養教諭食育研究会 (会長 金田雅代)

Ⅲ. 学校給食の状況に関する調査研究等の活動

1. 中学校における給食実施率の向上に向けて、各種情報を発信
本年度は中学校給食の実施率の低い政令指定都市の実態及び各都道府県の最新取り組み状況を取り纏めて参りました。今後も各方面にご活用いただけるよう最新情報を発信して参ります。
2. 海外の学校給食事情視察研修は、対象候補となる地域、状況などの情報収集を行ないましたが、昨今の治安状況を鑑み、実施には至りませんでした。
3. 給食関係者との連携強化

品質等調査研究員（モニター）制度「任期2年」は、(公社)全国学校栄養士協議会の協力を得て47都道府県の栄養教諭・学校栄養職員の先生方の中からモニターを担当して頂き、学校給食の食材等に関する意見や提言を受ける制度です。

10回目の今期（平成30年4月～令和2年3月）は先生方が報告しやすい様に報告様式を改めましたが、前期平成30年4月～平成31年3月は215件の報告を頂いております。

Ⅳ. 給食物資に関する調査研究並びに供給

1. 学校給食用優良食品の開発研究
 - 1) (公社) 全国学校栄養士協議会との共同事業である災害時の学校給食用非常食の開発については、第3弾和風ごはん物「救給五目ごはん」を製品化し、来年1月に発売を予定しております。
 - 2) (公社) 全国学校栄養士協議会と併せて実施している全学栄製品・全学栄すいせん製品の開発改良の取り組みについては、6年ぶりに全学栄すいせん製品として「蒸し挽き割り大豆」を開発し、4月より販売を開始して好評です。
学校給食用食品開発会議は年4回実施しており、非常食を含む全学栄ブランド製品の新しい製品開発に着手しております。
2. 全学栄製品・全学栄すいせん製品の変更内容と工場査察実施状況

本年度は(公社)全国学校栄養士協議会理事会において、3件の全学栄製品及び全学栄すいせん製品の製造工場変更・配合変更等とともに、新食品表示法対応状況について報告し、承認を頂きました。(承認順)

- ・全学栄すいせん製品「白花豆コロッケ」及び「スクールグラタン2種」製造工場変更、配合変更
製造工場の変更：マルハニチロ(株) ⇒ サンレイ食品(株)
配合変更：製造工場変更に伴い配合の一部変更
- ・全学栄すいせん製品「スクール糸かまぼこ」一括表示及びデザイン変更
新食品表示法に基づいた一括表示の変更と包材デザインの変更
- ・全学栄すいせん製品「北海道牛乳プリン」製造工場及び配合変更
製造工場の変更：(株)ネージュ ⇒ トーニチ(株)
配合変更：製造工場変更に伴い配合の一部変更

- ・全学栄すいせん製品「つぶつぶりんご&カムカムゼリー」一時休売
出荷数減少により製造元より終売要請有、代替工場探索中の為

また、「全学栄関連製品 製造工場認定基準」により、6 メーカー、7 工場の製造工場査察を実施しました。

- ・(株)スギヨ 工場名：関東工場 平成 30 年 4 月 26 日
「全学栄すいせん製品スクール糸かまぼこ」他 2 品
- ・(株)ニッコー 工場名：本社工場 平成 30 年 5 月 9 日
「全学栄すいせん製品スクールほたてグラタン」他 1 品
- ・(株)スギヨ 工場名：北陸工場 平成 30 年 6 月 28 日
「全学栄すいせん製品スクールチクワ」
- ・真富士屋食品(株) 工場名：静岡工場 平成 30 年 9 月 6 日
「全学栄すいせん製品えごまふりかけ」
- ・アリアケジャパン(株) 工場名：平和食品工業(株) 平成 30 年 11 月 19 日
「全学栄すいせん製品ニューミートップ」
- ・アルファー食品(株) 工場名：本社第 8 工場 平成 31 年 1 月 18 日
「全学栄すいせん製品救給五目ごはん」
- ・雪印メグミルク(株) 工場名：阿見工場 平成 31 年 2 月 4 日
「全学栄すいせん製品クラスメイト」他 3 品

3. 学校給食用脱脂粉乳供給事業

米飯給食の増加に伴いパン給食の頻度が減少し、それに伴い脱脂粉乳の使用量は年々減少している中での事業運営ですが、30 年度の買い入れは①継続的な国際市況安、②設定レートに対して円高が継続したこと、③競争入札による輸入諸掛や物流費の低減により、これらの原価低減メリットを配分先の各県に期末還元を行いました。

また、関東・甲信静ブロック、中国・四国ブロックにおいて、脱脂粉乳取扱い要領講習会を実施し、受講者に様々な知識を付与すると共に、税関等の関連機関との情報交換を図って参りました。

4. その他関連団体との協業

学校給食に関する様々な取り組みを文部科学省、(公社)全国学校栄養士協議会、全国学校給食会連合会、(公財)都道府県学校給食会、(一社)Jミルク、(一社)日本学校調理師会、その他関係諸団体と協業し推進して参りました。

V. その他

「学校給食普及改善委員会」を開催

学校給食普及改善委員の先生方にお集まり頂き、年 1 回の定例会を平成 30 年 12 月 8 日に実施しました。

すこやか情報便 22 号の配布状況及び非常食の取り組み状況について説明し、改善委員の方々からもご意見を多数頂きました。

また、すこやか情報便の次号のテーマ案について事前にご提出頂いたシートをもとに、積極的な意見交換を行い次号の方向性を確認し、たいへん意義のある充実した内容の会議となりました。

公2 国産食肉需要構造改善対策事業

公2事業の廃止については、5月の定例理事会および6月の評議員会において承認を頂いた後、7月17日に内閣府に対し、変更申請を提出しました。9月11日に公2事業の廃止が認定されましたので報告します。